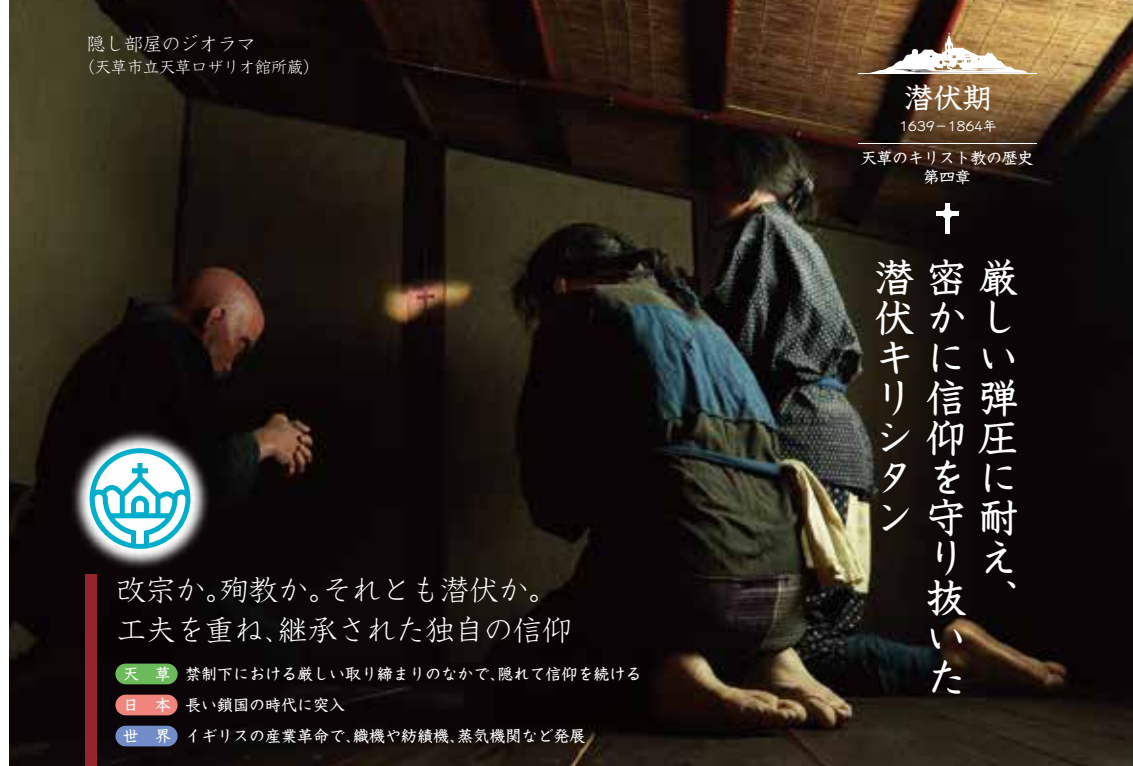


# 十 厳しい弾圧に耐え、密かに信仰を守り抜いた潜伏キリシタン



改宗か。殉教か。それとも潜伏か。  
工夫を重ね、継承された独自の信仰

- 天草** 禁制下における厳しい取り締まりのなかで、隠れて信仰を続ける
- 日本** 長い鎖国の時代に突入
- 世界** イギリスの産業革命で、織機や紡績機、蒸気機関など発展

## 天草支配の変遷

天草・島原の乱以降、島内の建て直しを行ったのは鈴木重成すずきしげなりでした。福岡城の代官所を拠点に、多くの地域からの移民を受け入れると同時に、島民に仏教への帰依を勧めました。この政策は、息子の重辰しげとよに引き継がれました。

その後の天草は、一時、藩領となりますが、1671年に再び天領となると、小川正辰が天草代官に就任します。しかし、1714年以降は、日田代官・島原藩・西国郡代・長崎代官の預かり地として、支配されていくことになりました。

## 天草の宗教政策

鈴木重成すずきしげなりの時代には、仏教政策も進められます。重成の兄にあたる鈴木正三すずきしんぞうを招聘しょうへいしたことを契機に、寺院や神社の建立、キリスト教を非難する排耶書はいやしょが作成されました。各村にはキリシタン高札が掲げられ、これには禁教とキリシタンの訴人について記されています。訴人について記されたものには褒美を与えるとして、訴人を推奨しました。



鈴木重成・正三像  
(福岡城二の丸)

## 絵踏と影踏

宗門改と寺請制度の徹底が図られるなかで、「絵踏(踏絵を踏む行為)」は特に厳しく行われ、キリシタンではないことの証明となりました。長崎代官や日田代官が支配している時は「絵踏」でしたが、島原藩の支配時は「影踏」と言い、「絵踏」も地域によって呼び方が異なっていました。



高札 踏絵 宗門改帳  
(3点とも天草市立天草ロザリオ館所蔵)

絵踏にあわせて宗門人別帳が提出されます。支配者によって「宗門人別絵踏帳」・「宗門人別影踏帳」と異なる文書が作成されています。支配者が変更される天草ゆえにみられる現象でした。

## 潜伏キリシタンと天草崩れ

厳しい禁教下でもキリシタンの教えは「潜伏キリシタン」たちの間で密かに伝えられてきました。しかし、その存在が1805年に露見し、「天草崩れ」が起こります。これにより、高浜村・大江村・今富村・崎津村の全住民10669人の約半数にあたる5205人が検

挙される大事件となりました。なかでも崎津村では全住民の72%が潜伏キリシタンでした。彼らは、十字架やメダイ、仏像などを所持しており、また洗礼名を授かっていることも発覚しました。

結果、検挙された人たちの処分は、絵踏をしていたことなどを理由にキリシタンではなく「心得違い」と認定され、重罪にはなりませんでした。

禁教下に起こった「天草崩れ」は、日本キリスト教史上で重要な事件とされています。

## コラム

### 福岡吉利支丹供養碑

天草・島原の乱では、多くのキリシタンたちが命を落としました。その亡骸は首塚となりましたが、ここに供養碑が建てられました。これは鈴木重成しげなりが1647年に建立したもので、キリシタンでありながら仏式で供養されるといって、当時の政情を物語ります。

キリシタンたちの末路と鈴木代官の思惑を感じることが出来る史跡のひとつです。



## COLUMN

### ゆるぎない信仰

#### 潜伏期のキリシタン



禁教下のキリシタンたちは表面上は仏教徒や神社の氏子を装いつつも、キリスト教信仰をつづける「潜伏キリシタン」となりました。

宣教師はすべて国外へ追放され、教会もないなかで、何世代にも亘って信仰を守ることが容易なことではなかったでしょう。「オラシヨ」と呼ばれる祈りの言葉をほぼ口伝で受け継いでいたといえます。

潜伏キリシタンたちは信仰が明らかになることを恐れ、神道や民間信仰などと共存した形で信仰を守ったのです。この時期の祈りの道具や言葉スタイルが、地域によって

異なるのも無理はありません。形を変えつつも潜伏キリシタンの信仰は親から子へ、子から孫へと脈々と受け継がれていきました。

天草諸島では、天草・島原の乱のあと下島の一部などにキリシタンが存在していません。宣教師がいない潜伏期の信仰は、独自の組織で成り立っていました。

信仰の指導者的な役割を担った「水方」と呼ばれる人が洗礼や葬送儀礼、日繰り(カレンダー)をもとにした祭礼などを執り行いました。水方屋敷跡に建つ現在の家屋には、潜伏キリシタンが信仰の対象としたメダイや十字架など信心具が保管されています。



▲岩陰のマリア▲

崎津の海辺では、マリアの目撃現象もよくありました。「岩陰にマリアの影が映った」あるいは「岩自体がマリアの形をしている」など、さまざまです。



▲鏡仏▶



▲オラシヨ



▲アビ▶

#### 崎津集落の潜伏キリシタン

住民の多くが漁業を営む崎津集落では、ロザリオやメダイのほかに、アワビやタイラギといった貝殻の内側に浮かび上がる模様を聖母マリアに見立てて崇敬するなど、漁村特有の信仰形態が受け継がれました。また、豊魚の神である恵比寿像や大黒天などを、デウ

スとして崇拝していたといえます。また、神社との共生も崎津集落の特徴です。村の守り神である「崎津諏訪神社」で「あんめんりゆうす(アーメンデウス)」と唱えながら手を合わせていたといい、自らの信仰と神社の様式をうまくすり合わせていたことがうかがえます。



崎津諏訪神社



▲大黒天



▲恵比寿



▲メダイ



▲マリア観音像  
(天草市立天草ロザリオ館所蔵)

#### 関連施設紹介

SPOT



#### 天草ロザリオ館

潜伏期の信仰で用いられていた信心具のほか、復元された隠れ部屋の様子などもみられます。

住 天草市天草町大江1749  
☎ 0969-42-5259  
営 8:30~17:00(最終入館16:30) 休 12/30~1/1  
料 大人300円、高校生200円、小・中学生150円



#### 天草キリシタン館

(乱後の天草復興とキリスト教信仰コーナー)  
崎津や大江の民家などで発見され、潜伏期の信仰で用いられていた信心具などを見ることができます。

住 天草市船之尾町19-52(殉教公園内)  
☎ 0969-22-3845  
営 8:30~18:00(最終入館17:30) 休 12/30~1/1  
料 大人300円、高校生200円、小・中学生150円

#### コラム

#### 大切な人を、パライスへ 経消しの壺と呪文

潜伏キリシタンは「仏教ではパライス(天国)に行かない」と信じていました。しかし、人が亡くなった際に仏式の葬式をしなければ、キリシタンであるとして処罰されてしまいます。そこで表面上は仏式の葬式を行い、かくれ部屋に潜んだ水方が仏僧の読経に合わせて経消しの呪文を唱えながら、死者をデウス(ゼウス)のもとへ昇天させる役割を果たしていたそうです。この時、仏教のお経を消すために使われていたのが「経消しの壺」。壺に聖水を満たし、中にロザリオを入れて使っていたといわれます。



経消しの壺  
(天草市立天草ロザリオ館所蔵)

#### 大江集落の潜伏キリシタン

大江集落の潜伏キリシタンは、海や田畑へ働きに行くふりをしてひそかに祈りを捧げていました。干潮時にしか辿り着かない海辺の洞窟に石造りの観音像を備えた「穴観音」や、山中に十字架やマリア観音像などを埋めた祈りの塚「隠し御堂」がそうです。

自宅の屋根裏に備えた「隠れ部屋(P17)」でひっそりと祈りを捧げる家もありました。天神様の帽子に十字を刻んだものや、十字架入りの天秤棒などもあり、工夫を凝らして信仰を受け継いでいたことがわかります。